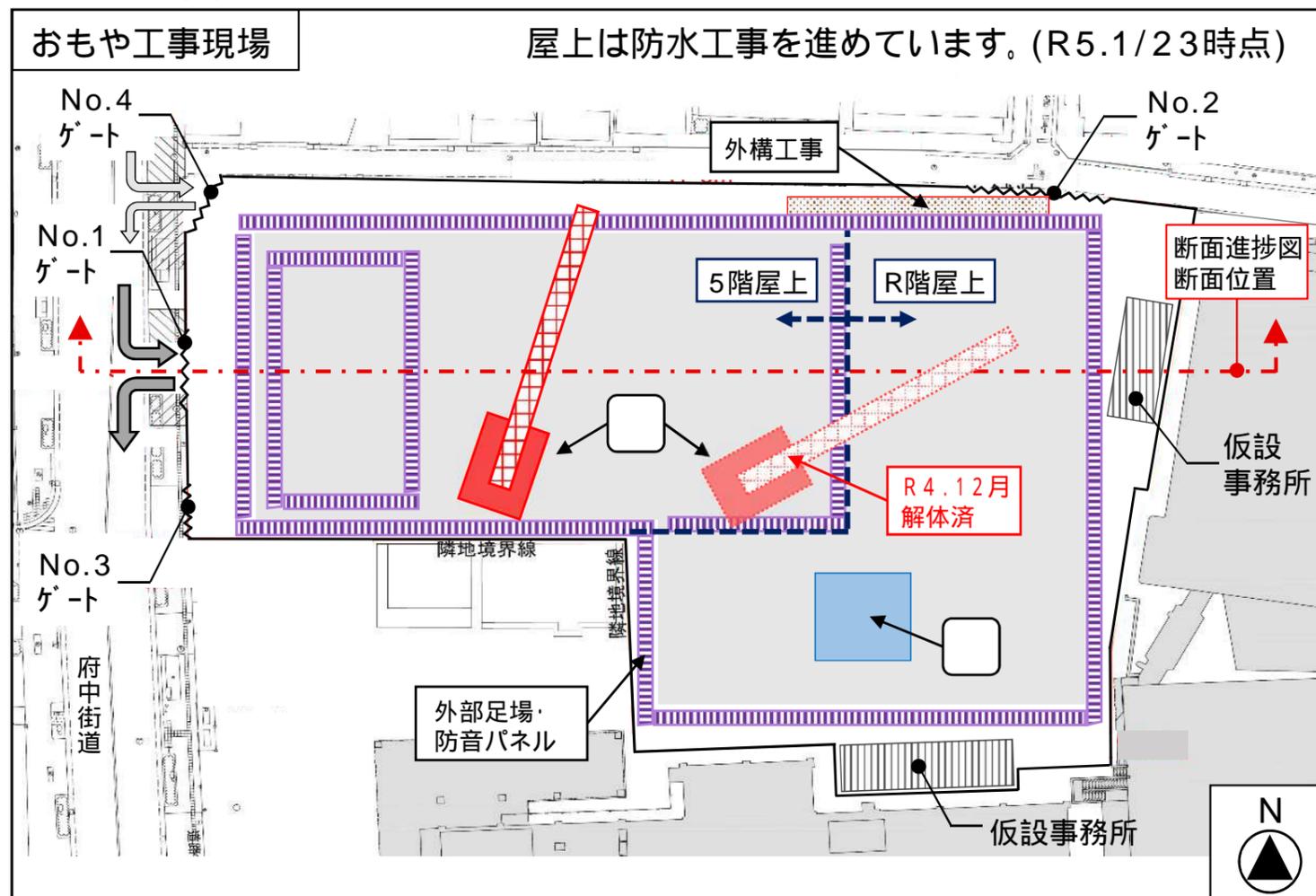


【平面進捗図】



空気調和設備工事(空冷ヒートポンプチラー)



・建物の空気調和には、空気を冷やしたり、暖めたりするための熱源装置が必要となります。このため、庁舎の屋上には、熱源装置として空冷ヒートポンプチラーを設置しています。この装置は、外気温度を利用して、循環する液体を冷却・加熱し、冷却・加熱処理した冷温水を各所の空調機まで送っています。

電気工事(分電盤)



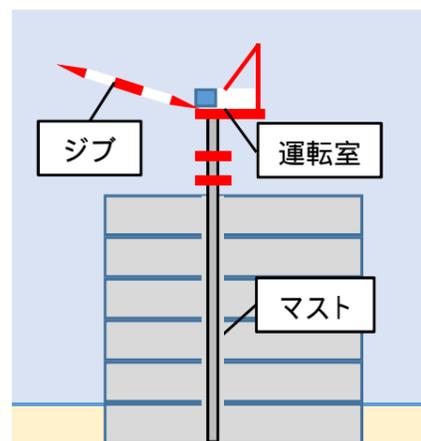
・分電盤は、変電所や電気室から送られてきた電気を、部屋の電灯やコンセント、設備機器に分配する役割を担います。電気の使い過ぎや漏電で事故が起きないように、漏電遮断器(ブレーカー)を取付けています。

・分電盤は、使用用途や容量に応じて大小様々なものがありますが、「おもや」だけでも約60個の盤を設置しています。

タワークレーン解体作業



- ・資機材の揚重作業で活躍した2基のタワークレーンは、工事進捗に伴って解体作業を進めています。1基あたり約4日間をかけて、大型トラックに積める大きさに順次解体し、現場外へ搬出します。
- ・作業は、ジブの解体 → 運転室の解体 → マストの解体といった流れで進み、作業終了後はマスト(支柱)の穴部分の床躯体工事を行い、建物を仕上げていきます。

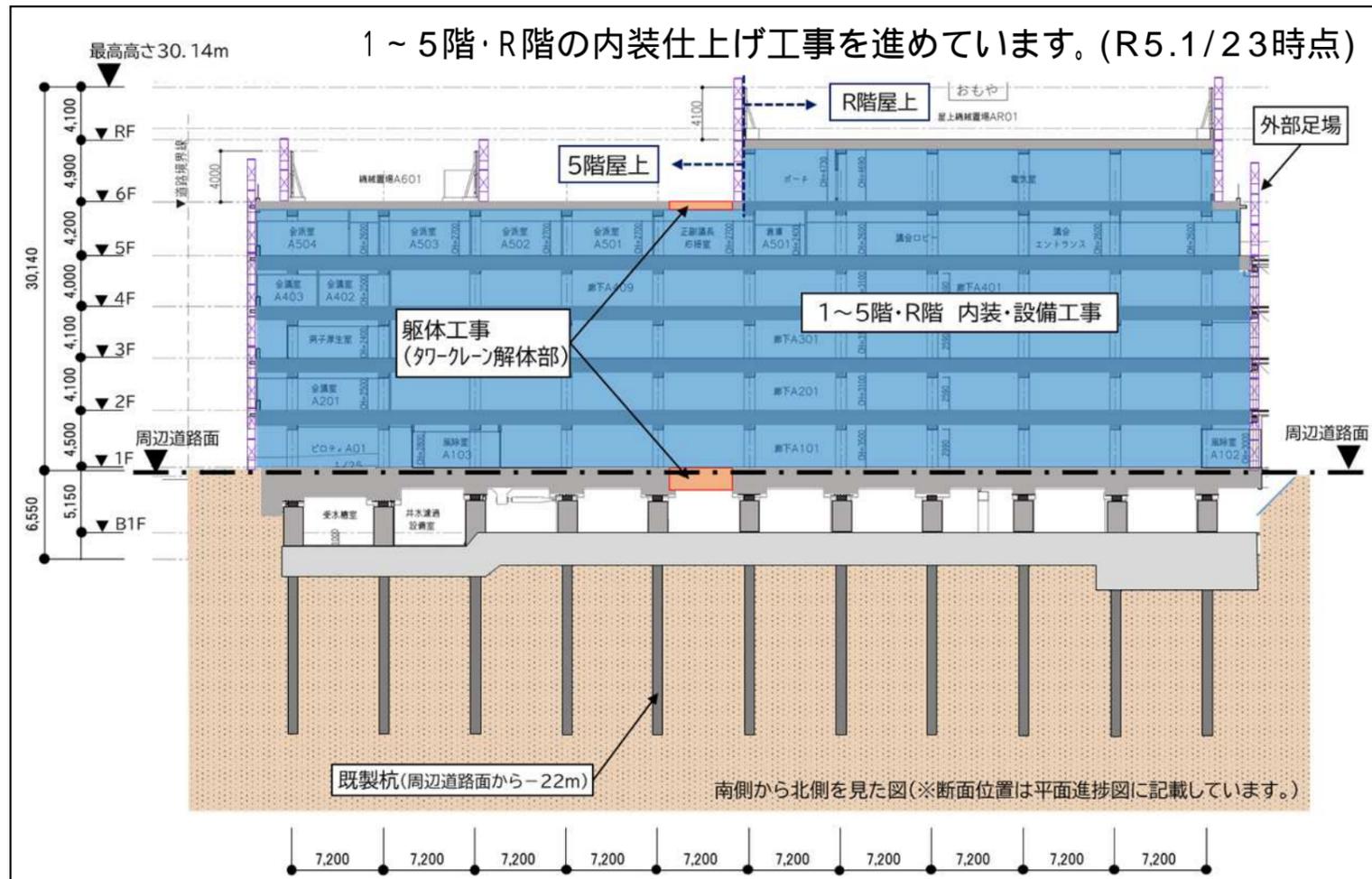


外装工事(ALC板・ECP板)



- ・ALC板(軽量気泡コンクリート板)は、不燃材料であり、火災の際に有毒ガスや、煙を排出せず安全性が高い建築資材です。耐火性を持つパネルとして建設業界で最も普及しています。
- ・ECP板(押出成形セメント板)は、内部に中空層を有し、耐久・耐火性に優れています。表面には様々な仕上げを施すことが可能といった特徴もあります。

【断面進捗図】



内装工事

天井仕上工事(岩綿吸音板)



- ・天井の仕上げ材には、岩綿吸音板を使用しています。吸音性に優れるとともに、火災にも燃えにくく溶けにくい性質をもった建材です。
- ・板の表面に無数のピン穴加工がされており、ピン穴から入った音が内部の細かい繊維との摩擦により減衰、吸収される仕組みとなっています。

壁下地工事(軽量鉄骨下地・石こうボード)



- ・壁の仕上げ面は、塗装やクロスが貼られますが、その下地は、軽量鉄骨下地と石こうボードで堅固に構成されています。
- ・軽量鉄骨下地は、LGSとも呼ばれ、一つ一つの鋼材を現地で加工し、ビス留めで組み立てます。石こうボードは、防火性、遮音性に優れた建材で、鉄骨下地の位置にビス留めし、固定します。

空気調和設備工事(全熱交換器)



- ・全熱交換器は、換気設備の一部で、排気時に捨ててしまう室内の熱を回収して、給気する空気に戻すことで、換気による温度変化を抑えることができる設備です。
- ・機器の内部にある、特殊加工紙で構成された熱交換エレメントを介して、外部の空気と内部の空気との熱移動を行います。

電気工事(吊り照明)



- ・広い空間の執務室は、照明を天井吊下げ型とし、床向きと天井向きの両方に設置することで、空間全体の明るさを確保します。
- ・照明器具は、全てLED照明とし、場所に応じてセンサー付きとすることで、省エネ化を図ります。また、管理室で中央制御することで、不必要な点灯をなくします。

昇降機工事(エスカレーター)



- ・建物の1階と2階をつなぐエスカレーターは、長さ12m程のトラスと呼ばれる骨組みに床パネルや駆動チェーン、駆動モーター等を設置し、組立てます。
- ・建物の躯体が完了した後に、内部にトラスを入れることから、搬入動線の寸法に合わせて、部材を製作し、様々な重機を用いて設置・組立てを行っています。